

博士論文要旨

論文題名 地域経済発展における行政の役割：

地域経済学・財政学からの検討

立命館大学大学院政策科学研究科

政策科学専攻博士課程後期課程

エナリ ユタカ

江成 穰

日本をはじめとした多くの先進国においては、戦後の高度成長を通して大都市圏が経済的な支配力を持ち地方圏が従属的な立場に押しとどめられるという垂直的経済構造が構築されてきている。しかし、現代社会の目標となる持続可能な発展を考えた際には、多くの国や地域において格差拡大や環境問題、公害問題を引き起こしてきた垂直的経済構造を是正し、各地域が自律性を持って持続可能な地域経済発展を目指していく必要がある。この持続可能な地域経済発展と合致する目的意識を持った地域経済の発展論として、内発的発展論が存在する。

内発的発展論は、各地域内の個人や企業、団体を主体として地域の経済のみならず環境や福祉をも含んだ総合的な発展を意図した議論となっている。そこで重視されるものは第1に地域経済発展における目的の総合性という目的論であり、第2にこれを地域の主体性の下で行うという主体論である。これに対して方法論としては、内発的発展論を提唱した宮本は域内需要に対する供給を創出することが重視されており、内発的発展論に地域経済学の知見を導入した中村は移輸出産業を重視する方向性を強調している。ただし、地域の総合的な発展を目指す内発的発展論の方法論は単なる産業育成による経済成長に主眼を置くのみではなく、内発的発展を担う主体の形成や総合的な社会経済発展のための再投資のあり方も重視している。

規範的な目標である持続可能な地域経済発展に内発的発展を手段として接近していくためには、地域の社会経済の実態を正確に把握した上で、明らかになった課題に対して正確な政策を展開することが求められる。しかし、内発的発展の前提となる地域経済構造の先行研究においては、地方圏における財政や年金といった公的資金の役割が明らかにされていないという課題が存在する。また内発的発展の方法論では、これに資すると考えられる地域産業政策の位置づけが十分に研究されていない。加えてこの地域産業政策は、財政学の理論か

らもその扱いが明らかにされておらず、内発的発展の実践に際して政府・自治体がどのような制度を用意し支出を行えばよいかといったことは不明である。

そこで本研究では、第1に計量分析から地域経済構造に接近し、地域経済における公的資金の役割を明らかにする。続いて第2に、この公的資金を含んだ地域経済構造の認識をベースとして、地域産業政策に着目した研究を展開する。特に、内発的発展論における地域産業政策の役割を実際の事例から明らかにすることで、持続可能な地域経済発展を達成するための方法論として地域産業政策の理論的・実践的意義を明らかにする。第3段階としては、地域産業政策の財政構造を事例から詳細に検討することで、内発的発展論の実践に資する地域産業政策のあり方を検討する。以上の3段階の研究を通じて、地域産業政策を手段とした持続可能な地域経済発展の方法を明らかにすることが本研究の目的である。

3つの研究目的を検討するために、本稿では4つの分析を展開する。第1段階の地域経済構造研究では産業連関分析を主な手法とする。地域における公的資金の役割を明らかにするために、まず日本の各都道府県の地域経済構造とそこにおける財政の地域経済に対する影響を、各都道府県の地域産業連関表を用いた分析から把握する。続いて、自治体レベルにおいてより具体的な分析を展開し、年金の経済効果分析や域際収支分析も含んだより包括的な公的資金に関する検討を、長野県飯田下伊那地域を事例に行う。これらの地域経済構造分析を基に、当該地域において自治体主導で展開されてきた地域産業政策が内発的発展にどのように寄与しているかという点を明らかにする。さらに、その地域産業政策がどのような財政制度・構造によって実現可能となったのかを整理することで、財政学における現代の地域産業政策の位置づけを検討する。最後に、以上の議論から、地域経済構造を踏まえた地域産業政策は内発的発展、ひいては持続可能な地域経済発展に寄与可能かどうかを検討する。これに加えて、最終的な結論においては現代の地域経済理論及び財政理論において地域産業政策をどのように位置づけることができるかという疑問に対する回答を試みる。

最終的な分析結果としては、第1にマクロな地域経済構造における公的資金の役割として、地方圏でより大きな生産・雇用誘発効果を持ち、域際収支赤字地域では公的資金の域際黒字がこれを補填していることが明らかとなった。第2に、内発的発展論における地域産業政策の役割としては、ハード・ソフトの多面的な事業展開によって民間企業・産業の成長を促し内発的発展の達成を支援しうることを示した。また、地域における内発的発展の実践を支える主体の形成も政策の大きな効果の1つであることを指摘した。最後に、内発的発展を支援するための地域産業政策に対する財政支出の実態を整理し、地方自治体の政策形成・実践能力の向上によって国の補助金・交付金などを地域産業政策に活用することができるようになったことを示している。ただし、財政理論における地域産業政策の位置づけに関する検討は不十分であり、この点は本研究の課題である。

Abstract of Doctoral Dissertation

Title: The Role of the Public Sector on Regional Economic Development: From the Viewpoint of Regional Economics and Public Finance

Doctoral Program in Policy Science
Graduate School of Policy Science
Ritsumeikan University

エナリ ユタカ
ENARI Yutaka

The global economy has expanded rapidly, and because of this situation, regional disparity and world environmental issues have become severe. To cope with these issues, each regional economy needs to seek sustainable local economic development. In the discussion of regional economics, the theory of endogenous development becomes essential. This theory emphasizes the importance of the regional environment, social welfare, and other comprehensive aspects of the economy and society.

This theory mainly focuses on the purpose, actor, and autonomy of regional socio-economic development in previous endogenous development studies. Although the implementation of endogenous development is important, the methodology of this theory is unclear. Miyamoto emphasized the importance of making regional productions for regional demands, creating an autonomous economy controlled by local actors, and cultivating local actors' business ability through the mutual learning activities in the local community. Compared to Miyamoto's discussion, Nakamura focused only on the regional economy aspect because he was affected by regional economics discussion. He emphasized the importance of basic industry's growth.

To implement the discussion of endogenous development, which contains normative objectives, the national and local government's role is essential. However, this theory does not include the government's role because it criticized the implementation of industrial location policy.

Although the industrial location policy could not work for endogenous development, the feature of industrial policies had changed, and recently some local governments try the regional industrial policy, which corresponds with the theory of endogenous development. Additionally, to comprehend the regional economy and industry structure is also crucial for implementing endogenous development. However, the role of public finance in the local economic system is also unclear.

Therefore, the purpose of this study is to clarify the three points below. Firstly, this study focuses on the local economic structure and describes public finance's role in the local economy. Secondly, this study considers the case of endogenous development and clarifies the position of local industrial policy in the theory of endogenous development. Thirdly, this study reveals the amount and system of public finance for local industrial policy. From these three analyses, this study shows the role of government for sustainable local economic development.

As a result, this study shows three roles of local government in the regional economy. Public finance has an enormous multiplier effect on the regional economy, especially in rural areas, and public finance also affects the regional payment balance. Additionally, local government can contribute to the endogenous development of the regional economy and society by utilizing regional industrial policies. Lastly, it is vital for the implementation of regional industrial policies to use subsidies from the national government. However, it does not mean a change in the characteristics of the subsidy. It means the improvement of the ability of each regional government.